

IV. 今後の授業評価、F D活動に向けて

第2回目の授業評価アンケートは、初回アンケートの経験を踏まえ、極めて順調に実施することができた。F D推進委員会、大学庶務部、教務部、教員、そして学生諸君の協力で心から感謝する。

昨年度の報告書にあるように、第1回目の授業評価アンケート実施にあたり、F D推進委員会は実施主体の組織化、関係各部の協力体制づくり、さらには教員と学生に対する啓蒙活動など多くの活動に取り組む必要があった。これらの基礎作り作業が着実に進められていたため、第2回目の授業評価アンケートは大きな混乱もなく整然と実施することができたといえよう。F D推進委員会、大学庶務部、教務部の間の連携も緊密であった。

このように、授業評価アンケートが順調に実施されつつある一方、F D活動全体としては、将来的な課題もまた無視することはできない。これまで、F D推進委員会の主要な活動が、授業評価アンケートの実施に傾いていたことは否めない。そのため、F D推進委員会が本来取り組むべき活動——研修会・講演会を通しての啓蒙活動、授業改善事例の収集・整理等——には極めて限定的にしか関与できなかった。今後も継続的に授業評価を続け、具体的な授業改善へと発展させるためには、事務部門をも含めた大学全体としての組織的取り組みが不可欠である。具体的にはF D担当部門の業務内容の明確化が必要であり、そのためにも独立したF D担当部署の設置を早急に検討すべきである。

現在、授業評価は教員にも学生にも急速にそして確実に定着しつつある。その真の意義は、個々の教員の努力により具体的な授業改善に結びついてはじめて理解されるのであろう。そのための全学的なシステム（それは教員と学生との共同作業によって実現する）の構築がF D活動の次のそして緊急の課題である。